

正月の京都

毎年、1月3日は京都へ行くことが多い。宮本憲一先生のご自宅で行われる正月恒例の「パーティ」に伺うためだ。

早めに京都に着いて、ぶらぶら歩くことが多い。去年は記録的大雪でまち歩きを断念したが、今年は京都駅から、西本願寺に向けて歩いた。別に理由があるわけではないが、阪急京都線をめざすからだ。参道に伝道院という建物があった。明治45年に東京帝国大学の伊東忠太教授の設計により建設されたという。重要文化財だ。



寺の案内によると、西本願寺は正式には「龍谷山本願寺」といい、浄土真宗本願寺派の本山である。広い境内には阿弥陀堂、御影堂の両堂(国宝)をはじめ、唐門や書院、飛雲閣などの国宝や、経蔵や手水舎などの重要文化財があり、1994年には「古都京都の文化財」として、「世界遺産」に登録された。

しばし休憩して、四条大宮に向けて歩いた。今年の正月は好天に恵まれ、眩しく暑い。汗を流しながら、京都らしい通りを進んで行った。大きな通りを1本中に入ると、静かになる。昔ながらの住宅も目に付いたが、マンションも増えているようだ。大学の「現代都市問題」という講義でよく流した「京のまちこわし」というバブル時代の映像を思い出した。

四条大宮から阪急電車で桂に向かった。車内は参拝客などで混み合っていた。桂から嵐山線に乗り換える。電車を待っていると、政井さんから声をかけられた。数年ぶりの再会だ。政井さんは著名なジャーナリストであり、先生のご自宅まで、新聞のことなどを話しながら歩いた。

下の写真は先生のご自宅から撮った夕日だ。桂川沿いで景観がよいが、ここでも開発の動きが目立つという。恒例のパーティは、美味しいお酒と料理を堪能しながら、参加者のスピーチが続いた。早めに退席した。帰りの新幹線は猛烈な混雑を予想したが、意外にそれほどでもなかった。



こうして、今年も「正月の京都」を味わうことができた。

(2016年1月5日)